

# 蘇った歴史の道 岩国往来



山口県 岩国市  
岩国往来まちづくり協議会 / 岩国市

手づくり郷土賞について

受賞記念発表会

講評

大賞部門

一般部門

資料編

## 1 社会資本の概要

1600年、初代岩国藩主吉川広家の家族・家臣が、現在の島根県より約30kmの岩国往来を本郷から5つの峠を越え、岩国に移住しました。その後、御国廻りや岩国和紙の運搬の道として栄えましたが、現在のように道が整備されると、峠の多い岩国往来は次第に使われなくなり、忘れ去られました。2005年よりボランティアにより道を調査・復元し、歩けるようになりました。

萩藩や岩国藩は、江戸時代から「三白（米、塩、和紙）政策の一つとして手すき和紙の生産が奨励され、岩国往来沿いの山代地方（本郷・美和など）、岩国地方で和紙の生産が盛んに行われました。山代和紙、岩国和紙は品質が良く、特に大阪方面に専売品として出荷されました。和紙は藩の財政を支え、とりわけ錦帯橋は岩国和紙を財源に創建されたと言っても過言ではありません。



本郷代官所の門



五連の木造アーチの錦帯橋



岩国往来起点の今津御茶屋跡

## 2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

地元ボランティアにより岩国往来の道、史蹟、標識類等が整備され、歩けるようになりました。一里塚は2基存在していましたが、新たに地元の石を使い2基を復元、駕籠立場は3箇所存在していましたが、間伐材を使い2箇所復元しました。また、標識を約170箇所、地図案内板7箇所、案内板20箇所をすべて手づくりで設置しています。岩国往来沿いに春の菜の花、秋の彼岸花、紅葉を楽しみながら、市民ハイキング、JRふれあいウォーク、地元の小

学生、中学生が歴史、文化、自然にふれあいながら歩いています。また、江戸時代、岩国藩は和紙作りが大変盛んでしたが、現在は全く作られていませんでした。そうした中、地元中学校の行事として岩国往来を生徒と一緒に歩いたことがきっかけで、地元や生徒の協力を得て、2010年に岩国往来沿いに和紙の原料三椏を植樹しました。3月には三椏の花が咲き、とても綺麗です。



間伐材で阿賀駕籠立場を復元



地元の石で一里塚を復元



和紙の原料三椏を植樹する中学生

## 3 活動の成果や波及効果等

中学生を案内し、岩国往来を歩いたのがきっかけで、岩国往来沿いに生徒が和紙の原料三椏を植樹し、2015年より三椏を使って卒業証書を作り始めました。1年生は三椏の植樹と収穫、2年生は皮剥きと異物除去、3年生は紙すきで世界に1枚の卒業証書を作り、今年で4年目となりました。今後も卒業証書作りが継続され、江戸時代のように、和紙作りでまちが活性化し、紙すきの人材育成が出来ることを期待しています。



紙すきで自分の卒業証書を作る3年生

## 4 前回受賞時からの活動の発展内容

紙すきでの卒業証書作りは、2015年より始まりましたが、生徒は勿論ですが、市民も関心を持ち、紙すきに参加する人が増えました。また、岩国往来を歩くイベントに市民や学生が多数参加するようになりました。

### 所在地

山口県岩国市 本郷、美和、岩国  
(岩国市本郷と今津を結ぶ約30km)

### 活動主体及び連絡先

岩国往来まちづくり協議会・岩国市  
(電話 0827-43-0220 藤森 勝彦)

### 対象となる社会資本

岩国往来 (岩国市道錦見43号線他)  
※管理者: 岩国往来まちづくり協議会、岩国市

## 喜びの声



### 受賞者

岩国往来まちづくり協議会  
会長 藤森 勝彦

### コメント

一里塚の調査がきっかけで岩国往来に出会い、各自治会やアメリカ人ボランティアの協力により手づくりで整備・復元しました。特に中学校や地元との協働で、紙すきによる卒業証書作りを今後とも継続したいです。

### 活動の内容

- ・道の整備、イベントの実施・案内
- ・三椏を原料とした紙すきで卒業証書作り

### 活動の経緯

- 平成18年 岩国往来まちづくり協議会設立
- 平成24年 手づくり郷土賞(一般部門)受賞
- 平成27年 卒業証書作り開始



手づくり郷土賞について

受賞記念発表会

講評

大賞部門

一般部門

資料編